てわかりやすく解説していただきました。またセミナー後半には、研修委員会の醍醐味といってもいい、トークタイムを設け、子育ての悩みを班ごとにざっくばらんに話し合い、委員同士の交流をはかりました。

さらには各方部会の中止を決定。一方部でのモデル校開催とし、全方部でその運営に携わり、疑問点や改善点を共有していく形をとりました。

モデル方部となった平方部では、川崎学園理事長 川崎葉子先生をお招きし、『心の教育』～子どもの心に寄り添って～と題してご講話いただきました。親が代弁せず、子どもに考える力を身につけさせること、生命の大切さ、恩を送っていくこと、など、ここでは書ききれないほど、真の教育とはなにか、を考えさせられる、貴重なお時間でした。

ここまでお伝えしてきたこの素晴らしい時間を、なくしてしまっていいのでしょうか？声に出せず、悩んでいる方たちのもとへ、一人でも多くの方へ、必要な情報や、心のケアを届けて行くためには、研修委員の活動はなくてはならないものではないでしょうか。

前述しましたように、今年度は移行期です。すべての問題をクリアにするためにはもう少し時間がかかると感じています。

これからも、今、できることを続けながら、新しい研修委員会の形を作っていくために、役員一同、力を合わせて取り組んでまいります。県での活動の経験も大いに生かし、参加された皆さまが笑顔になれる会を目指してまいります。今年度も研修委員会の活動に携わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

家庭教育セミナー「学校を楽校に！」

～大人が子どもにできること　不登校・ひきこもりのアウトリーチの現場から～

講師　開善塾教育相談研究所所長　**藤崎 育子** 先生
福島県PTA連合会研修部長／福島市立下川崎小学校長　**丹治 達也**

福島県ＰＴＡ連合会の研修委員会が中心となり、９月13日（金）に、福島県青少年会館で「家庭教育セミナー」を開催しました。

「学校を楽校に！」～大人が子どもにできること　不登校・ひきこもりのアウトリーチの現場から～をテーマとし、「基調講演」「グループ協議」という内容で実施しました。

基調講演の中ではまず、豊富な家庭訪問の経験から具体的な事例を交えて話していただきました。ちょっとした言葉や対応が違うだけで不登校のきっかけになってしまうという話は家庭と学校それぞれが気を付けていかなければならないことだと感じました。また不登校の子どもの気持ちを理解するために行った演習では時間の感覚が大切であるということを実感しました。「注意したいときは1分で終わる」など具体的なアドバイスがあり今後に役立てたいと思えるものがたくさんありました。

次に、不登校の子どもが復帰するために大切なことについての話がありました。不登校になって一番変わることは基本的な生活習慣や生活リズムです。これが崩れてしまうと学校だけでなく、将来仕事を始めても長続きしなくなってしまうということでした。ですから、学校に行かなくても、生活リズムを整えて、家で様々な手伝いをすることで多くの経験をすることが自信につながり、人の役に立つということを知ることががんばる力になるという話は子どもの未来につながる大切な話だったと思います。

その後のグループ協議では講師の先生にそれぞれのグループに参加していただき、その場で様々な質問に答えていただきました。時間が足りなく感じるほど中身の濃い協議でした。

約２時間という短い時間で開催された「家庭教育セミナー」でしたが、今すぐにでも役立てられるたくさんのことを学ぶことができ、大変有意義な時間にすることができました。

福島県PTA連合会「研修委員会だより」第17号　令和７年３月１日発行

第17号 研修委員会だより

研修委員会 委員長あいさつ

～研修委員会の活動を振り返って～

田村地方PTA連合会会長／県P研修委員長　**白土謙太郎**

子どもたちが健やかにたくましく成長し、幸せになってほしいと想うことは、私たちにとって一番の願いであり将来への希望であると思います。しかし、昨今に限らず変わりゆく社会情勢、コロナ禍を経た地域の関わり方の変化やインターネット及びSNSの若年層への普及、AI技術の進歩など、私たちを取り巻く環境は常に変化しています。便利な時代になったなと感じる反面、その便利さが悪影響となったり、かけがえのないものを見失ってしまうこともあるかもしれません。しかし、人と人との繋がりから生まれる信頼や友情、思いやりの心など、人として大切なことはこれからも変わらないと思います。それらを学ぶ機会を大切にしながら、子どもたちの価値観や感性の変化を理解し共に成長していくために、私たちも日頃から学びアップデートしていくことが必要不可欠と思います。

研修委員会の活動として、令和６年９月13日家庭教育セミナーを開催させていただきました。講師に藤崎育子先生をお迎えし、子どもの不登校問題をはじめ、家庭訪問から経験した子どもとのコミュニケーションのコツや自己肯定感の育み方など、私たちにとって今求められている貴重な情報や知識・考え方を学ぶことができ、とても有意義なセミナーだったのではないかと思います。そして、お忙しい中参加していただいた皆様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。本セミナーで学んだことを家庭教育に活かし、少しでも多くの方に拡散していただければ幸いです。

こうして研修委員としての活動を振り返ると、家庭教育セミナー開催にあたり研修委員代表理事の皆様をはじめ研修委員一人一人が意見を出し合い、協議を進め準備していくことができたと思います。代々受け継がれてきた本事業の意義を理解し、教育に関する悩みや相談ができる交流の場としてこれからも継続されるよう願っています。

最後になりますが、研修委員の活動を通して委員の皆様にはとても勉強させていただき、私自身にとっても楽しく素晴らしい経験ができたと思っております。一年間関わっていただいた全ての方に感謝申し上げますとともに、研修委員活動に対するご理解ご協力を賜り心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

今、知っておきたい“言葉の大切さ”と“心の健康を守る親子関係”

～福島市小中学校PTA連合会　活動報告～

福島市小中学校PTA連合会副会長／県P研修委員代表理事　**大内 沙織**

私たちは、「子どもたちの為に」日々活動している中で、昨今は、学校の先生方や保護者の働き方の変化等により、「保護者の為」「先生の為」にも関わりやすい活動内容が求められています。セミナーを開催することで、会員の教養を高め合い、他校PTAとの交流が生まれ、情報交換の場を持つことができました。今後も、各校PTAでの活動の一助になるよう活動してまいります。

●教養委員会

10月4日（金）福島県青少年会館にて

講話「今、知っておきたい言葉の大切さ
～現役アナウンサーが大事にしていること～」
講師：奥秋直人先生（テレビユー福島報道局長）

対面での活動が再開され、改めて、コミュニケーションの要である「言葉の選び方、伝え方」についてお話いただきました。

生きる上で非常に大切な事とお話されており、アナウンサーの実技大会の映像を交えながら、伝え方（音をきれいに出す方法やコツ、話し方）について解説していただきました。

- 言葉（音）に出す。思っているだけではダメで、言葉に出す事が大事。特に感謝の気持ちは言葉に出してほしい。また、伝え方で伝わり方が違うこと。例えば、言葉の緩急・間の取り方・音の高低が変わると全く違って聴こえてくる。
- 表現はシンプルに。あいまいな語尾を避ける。文書で見受けられる表現も、話す際は回りくどい表現に聞こ

えるので、例えば、「～になります」より「～です」といった簡潔な表現へ。

●家庭教育推進委員会

12月7日（土）福島県青少年会館にて

講話「子どもたちの人生を豊かに育む教育
～子どもたちの心の健康を守る親子関係について～」

講師：渡會睦子先生
（東京医療保健大学 医療保健学部 看護科教授）

まず、思春期には適齢期があり、拝聴している親側も、中学時代に思春期を迎えました。今の子も、同じような経験（急にイライラ、親と話したくない、人に言えない悩みの有無など）があります。また、時期が大学時代に遅れて迎えるのは問題で、他の子との違いに悩み、鬱や統合失調症の傾向が出てしまうとのことでした。

・東横キッズの問題（パパ活、オーバードーズ、DV等）について、渡會先生は数年前から、見回り等の活動をなさっている。子どもの家庭背景と、自己肯定感の低さが問題である。
・LGBTに関して、心の揺れが多い思春期には、決めなくても良い。あらゆる状況でも“平等である”という姿勢が大切。

・自己肯定感の高め方
・乳幼児期～親等から継続的な愛情や大切にされる経験。都市化によって他人や自然とのふれあいが減少。親以外にも褒められる場が必要
・９歳以降～喜怒哀楽の感情を経験することで、思いやりや優しさを育てる。
ゲームとの関わりは注意が必要。前頭前野の働きが悪くなり、「本能」「感情」が優勢となる。疑似体験は増加するが、実体験が減少する。
親<ゲーム優勢、に陥りやすい。

郡山・田村大会の開催による学びを広げて

～郡山市PTA連合会　活動報告～

郡山市PTA連合会副会長／県P研修委員代表理事　**有馬 尚子**

「第72回福島県PTA研究大会」郡山・田村大会を令和６年10月12日にけんしん郡山文化センターにて開催しました。県内よりPTA会員及び関係者約1,200名の方々にお集まり頂き無事開催することができました。

今年度は郡山PTA連合会・田村地方PTA連合会の合同開催で開催しました。

「楽都郡山で奏でる、人と地域のハーモニー」
～予測困難な時代を笑顔でたくましく生きる子どもたちのために～

自然災害、感染症、国家内の紛争、高度な情報化、人工知能の発達など、めまぐるしく変化する社会環境の中において、これからの子どもたちは、たくましく生きることが求められています。予測困難といわれる時代の中、時代を担う子どもたちの笑顔と明るい未来のために、あらためて「人と地域」の大切さを認識し、これからのPTAが取り組むべきことについて、共に考え、話し合う意義ある大会にしたいと願い、テーマにさせて頂きました。

本大会では

●記念講演　作家・三春福聚寺住職 玄侑宗久氏
「星とスミレを見つめて」

●健全育成　株式会社安藤塾代表 安藤大作氏
「未来の主役となる子どもたち」

●特別支援　公益財団法人 金森和心会針生ヶ丘病院
発達心理課課長心得 横山里美氏
「子育てにユニバーサル・デザインを～
《わかる世界》の中で個性を生かす・認め合う～」

●家庭教育　一般社団法人インターネット・ヒューマンライツ協会代表　スマイリーキクチ氏
「NET社会に生きる子どもたちと家庭」

の内容で、講話を頂き「一人一人の多様なウェルビーイングの向上のために」の思いをより一層深められた時間だったと思います。

また、郡山市PTA連合会では、「子どもたちと地域社会との繋がり」にフォーカスして、「地域交流やコミュニティスクールとしての公民館の利用方法について」をテーマにアンケートを取らせて頂きました。

その結果、「ほとんど利用していない」が半数をしめ、近くにあっても利用していない現状がわかりました。理由として「利用の仕方がわからない(使用可能な日時や場所がわかりにくい・登録番号がないと利用出来ない…など)、高齢者の方が利用するイメージしかない…などがありました。

保護者の皆さんからは、イベントがある時以外にも、子どもたちがふらっと立ち寄れたり、学習スペースとして利用出来れば…との声も多くありました。身近な公民館で、仲間同士でつどい・学びあうことができるようになれば、子どもたちも地域の方々と一緒に、人づくり・地域づくりで成長していけるのではないかと思います。

今の時代を生きる子どもたちへの理解を深める

～会津若松市父母と教師の会連合会家庭教育部会　活動報告～

会津若松市父母と教師の会連合会 家庭教育部会長／県P研修委員代表理事　**山田 真由実**

会津若松市父母と教師の会連合会の家庭部会は今年度より改称され、男女共にそれぞれの立場から子どもの育ちと向き合える新体制となりました。市内義務教育諸学校から選出された111名の部会委員で活動をしております。本年度は若松第一中学校で２回の研修会を開催いたしました。

◎第1回家庭教育部会　7月5日（金）

講演会　「今の時代を生きる子どもたちへの理解を深める」

講　師　鈴木明子先生
（福島県スクールカウンセラースーパーバイザー）

●子どもの成長過程、それぞれの年代における心の発達を正しく理解する
●ネットの普及に伴う問題や人間関係などで子どもの抱える課題の変化を把握する
●子どもも大人も忙しい現代社会において「引き算の育児」の大切さ
●こころの発達と学校の役割

子どもの心は出会う人で大きく変化していくこと、大人は善悪の判断を訴えつづけることが必要であり、家庭が一番安心して休める場所であって欲しいという明子先生の願いも込められた大変貴重なお話をいただきました。参加した部会員からは、「成長の要である家庭のあり方を見つめ直すことができた」「家庭が安心出来る場所であるように努力していきたい」「自身が子どもに安心感を与えられる存在でありたい」など多くの感想が寄せられました。子どもとの向き合い方に戸惑いを感じている家庭も多くありましたが、子どもたちを理解し支えるためにできることへの知見を広げることができた大変有意義な時間となりました。

◎第2回家庭教育部会　11月29日（金）

ワークショップ　「ミニミニ生け花」

華道講師　渡部芳水先生（華道龍生派 会津支部長）

身近にある花材や花器を使って手軽にできる生け花を体験いたしました。伸び伸びとお花と向き合った部会員の作品は同じ花材や道具を使用しているのにどれ一つ同じ作品はなく、自分の作品に目を輝かせている姿が印象的でした。生けた花を離れたところから見つめ直し角度を変えて眺め、花が一番輝く位置を探り、空間をうまく使いながら美しく生けていく、先生に手直ししていただくとより美麗な作品に変化していく過程は「お子様と一緒です。子育てそのものですよ」という芳水先生のメッセージを実感することができました。初めて生け花を体験した部会員も多く、日本の伝統文化に触れるきっかけになったのではないかと思います。部会員同士の会話も弾み、情報交換や交流を深めることもでき充実した研修会となりました。

新体制の家庭教育部会を無事開催することができましたのはご協力いただいた皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。研修を通して得た知識と正しい情報を共有し発信できるよう、子どもたちの健やかな成長を願いながら活動を続けて行きたいと思います。

“新生”研修委員会『受け継いでいくために』

～いわき市PTA連絡協議会研修委員会活動報告～

いわき市PTA連絡協議会研修委員長／県P研修委員代表理事　**白石　香**

「スクラップアンドビルド」コロナ禍を経て様々な活動が再開し始めた昨年度からよく耳にする言葉です。私たち研修委員会においても、まさしく、この過渡期、移行段階であると痛感しております。

研修委員会とは子どもたちの健全な成長を願い、まずは親である私たちが研修の機会をつくり自己研鑽しながら保護者同士の繋がりを形成することを目的としております。例年通りですと、「研修セミナー」「リーダーセミナー」への参加及び運営、さらにはその経験を生かし、各方部(全6方部)ごとに「方部会」を開催していました。ですが、多くの方部で方部会の中止が続いたこの数年で、方部間での引き継ぎがうまく機能できず、『開催方法が分からない。』『運営の負担が大きい。』などの意見があがるようになりました。

そもそも研修委員とは何か？研修委員会の意義は？今年度私たちは、原点に立ち返り、これらのことを考えてみることにしました。

「リーダーセミナー」では、研修委員長を経験された大泉きよみさんと坂下直子さんをお招きし、PTAについ